

1. 授業のねらい・概要

国際取引法の基本事項を理解することを講義の目標とします。今度、デパートやスーパーで買い物をするときに、商品の原産地や製造地を意識して見てみると分かると思いますが、今や「made in Japan」の商品の方が少ないかもしれません。多くの商品が、国際取引を通じて外国から輸入されたものです。「国際取引法」の講義では、そのような国際取引に関係する法律について解説します。

後期の「国際取引法B」では、国際取引法の各論として、離れた場所である隔地者間の契約や、インターネット法、国際海上貨物運送、国際海上貨物保険、国際投資等について説明します。また、今後、益々重要性が増してくると思われる英文契約書を理解するために、英文合弁基本契約書や英文特許実施許諾契約書の教材やビデオを使用して、分かり易い解説を心掛けます。

2. 授業の進め方

- ① 50～60分 配布するレジュメに従って、説明や補足をしながら講義を行います。
- ② 30～40分 配布する練習問題に回答してもらいます。また、質問を受け付けます。

3. 授業計画

1. 講義紹介	9. 各国の食文化・慣習等
2. 各国法概要	10. 産業財産権（国際的観点）
3. 申込みと承諾	11. 著作権（国際的観点）
4. インターネット法	12. 国際投資①（国際投資に関する法律等）
5. 国際海上貨物運送	13. 国際投資②（文化摩擦等）
6. 国際海上貨物保険	14. 英文特許実施許諾契約書①（実施条件等）
7. 合弁事業	15. 英文特許実施許諾契約書②（準拠法等）
8. 英文合弁基本契約書	

4. 到達目標

- ① 国際取引法の概略を理解すること。
- ② 英文契約書を理解できるようになること。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

- ① 各講義の内容に関する参考文献の該当箇所を読むこと（30分程度）。
- ② 各講義の内容に関するニュースを、新聞やインターネットなどで見た場合は、読んで概要を説明できるようにすること。

6. 成績評価の方法・基準

積極性 20～40%（受講態度等） ＋ 期末試験 60～80%（筆記試験）

A 80点以上 B 70～79点 C 60～69点 D（不可）60点未満

7. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しませんので、特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のものを挙げます。

- ① 佐野寛『国際取引法』（第4版）有斐閣 2014年（2700円）
- ② 石川明編『フレームワーク法学入門』不磨書房 2007年（2400円）
- ③ 岩崎一生『英文契約書』同文館 1998年（2940円）

8. 受講上の留意事項

- ① 法律英語を使用するため、英語の基礎力が備わっていることが望ましい。
- ② 他の迷惑となる行為、態度不良、遅刻、中途退席等の目立つ受講者については、評価を減点又は受講を制限します。